

令和3年度を振り返って

柔道専門部

はじめに本年度の各大会準備、運営に当たり、京都府中学校体育連盟をはじめ、関係者の皆様、そして各校顧問の先生方には並々ならぬ御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

柔道競技では、2年ぶりに府総体を開催することができました。

今年度も空調の効いた会場の確保などや新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの大会運営となりましたが、多くの方々のサポートにより、無事に大会を終了することが出来ました。

今後も安全に留意した大会運営を心掛けていきたいと思えます。

近畿大会及び全国大会報告

8月7日（土）・8日（火）高砂市総合体育館で開催された近畿中学校総合体育大会団体戦男子は、京都文教中学校・京都先端科学大学附属中学校・藤森中学校。女子は藤森中学校・南城陽中学校・洛南中学校が出場しました。

個人戦では、二位に田中麗奈さん（女子70kg級・藤森中）、坂本四葉さん（女子70kg 超級・宇治中）、勝原琉生くん（男子60kg級・京都先端大附）、近藤溪龍くん（男子73kg級・京都先端大附）、三位は、才田恵梨香さん（女子40kg級・男山第三中）、木村穂花さん（女子57kg級・洛南中）、長井風雅くん（男子90kg級・京都文教中）

そして出場選手それぞれが近畿の強豪選手を相手に好試合を展開してくれました。

8月22日（日）～25日（水）においてALSOKぐんまアリーナで開催された第52回全国中学校柔道大会には、男子団体戦は京都文教中学校・女子団体戦は藤森中学校が出場し、京都文教中学校がベスト16に入り敢闘賞を受賞しました。また、個人戦では木村穂花さん（女子57kg級・洛南中）が3位に入賞しました。そして、全員が善戦をいたしました。

令和3年度 第74京都府中学校総合体育大会 柔道競技の部 [京都市武道センター]

【男子団体戦】

令和 3 年 7 月 ^{28・29} 日 (水・木)

優勝	2位	3位	
京都文教	京都先端	藤森	桂

【女子個人戦】

	優勝	2位	3位	
40 kg級	才田 恵梨香 〔 男山三 〕	小川 にこ 〔 大谷 〕	澤井 唯那 〔 八条 〕	東 風結 〔 下京 〕
44 kg級	川野 幸音 〔 藤森 〕	田嶋 雪穂 〔 南城陽 〕	小西 彩菜 〔 下京 〕	仙崎 由佳 〔 桂 〕
48 kg級	立花 心愛 〔 凌風 〕	小林 美月 〔 太秦 〕	清水 心優 〔 加茂川 〕	山本 和愛 〔 上京 〕
52 kg級	田中 葉月 〔 桂 〕	増山 一智 〔 嘉楽 〕	須賀 日和 〔 西京極 〕	立花 心優 〔 凌風 〕
57 kg級	木村 穂花 〔 洛南 〕	竹村 亜美 〔 京都先端 〕	新谷 千紘 〔 白糸 〕	大木 聡子 〔 南城陽 〕
63 kg級	島本 翠 〔 南城陽 〕	政田 結宇 〔 久御山 〕	阿部 円香 〔 烏丸 〕	湊谷 来 〔 藤森 〕
70 kg級	田中 麗奈 〔 藤森 〕	南 舞鈴 〔 神川 〕	〔 〕	〔 〕
70 kg超級	坂本 四葉 〔 宇治 〕	長尾 梨子 〔 京都先端 〕	鞍馬 光理 〔 藤森 〕	〔 〕

令和3年度 第74回京都府中学校総合体育大会 柔道競技の部 [京都市武道センター]

【女子団体戦】

令和 3 年 7 月 ²⁸⁻²⁹ 日 (水・木)

優勝	2位	3位	
藤森	南城陽	洛南	京都先端

【男子個人戦】

	優勝	2位	3位	
50 kg級	勝原 理功 〔 凌風 〕	小川 楽功 〔 京都先端 〕	市野 誠太郎 〔 木津南 〕	浅田 郁瑠 〔 京産大附 〕
55 kg級	織部 正拳 〔 藤森 〕	榎村 隼羽 〔 京都先端 〕	横田 宏介 〔 藤森 〕	前田 智嵩 〔 京都先端 〕
60 kg級	勝原 琉生 〔 京都先端 〕	中西 大輝 〔 男山第二 〕	岡本 大輝 〔 宇治 〕	杉本 來樹 〔 京都先端 〕
66 kg級	中前 陽介 〔 京都文教 〕	櫻井 一鷹 〔 男山第二 〕	八田 好誠 〔 東城陽 〕	日垣 翔心 〔 京都文教 〕
73 kg級	近藤 湊龍 〔 京都先端 〕	小林 柁也 〔 藤森 〕	野添 莞司 〔 京都文教 〕	岡野 太郎 〔 西賀茂 〕
81 kg級	廣岡 凜太郎 〔 桂 〕	海島 帝龍 〔 京都文教 〕	北尾 律樹 〔 八条 〕	山口 琥太郎 〔 京都文教 〕
90 kg級	長井 楓雅 〔 京都文教 〕	小松 優真 〔 勸修 〕	長畑 壮真 〔 京都文教 〕	戸出 悠斗 〔 洛南 〕
90 kg超級	加藤 海 〔 京都文教 〕	上野 健太 〔 京都先端 〕	中村 太海 〔 京都先端 〕	池田 慎太郎 〔 京都文教 〕

令和3年度を振り返って

剣道専門部

令和3年度は、2年ぶりに府総体が開催されることになりましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防の対策を講じての開催となり、例年とは大きく異なる大会運営でした。しかし、剣道専門部では昨年度「中高生夢舞台開催支援事業」で大会を開催したので、その時のノウハウや反省点を生かして準備をしました。そのため大きな混乱はありませんでした。一方で、全日本剣道連盟から「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」が発出されました。今年度の大会から適用しなければならないので、大会前に審判講習会を実施し、ブロック大会から新ルールで試合を行いました。審判員の認識のずれや様々な疑問点があがるなど、周知徹底に苦労しました。しかし、府総体は各ブロックの予選を勝ち抜いた選手ばかりなので、新ルールをきちんと理解し、反則が続出することもなく大会を終えることができました。

大会の運営面では、新型コロナウイルス感染防止対策として、事前の健康観察、参加者名簿の提出、無観客、試合中のマスク着用、声援の禁止、会場の換気、会場内の消毒などを行いました。また、竹刀検量の会場が狭いので、男子団体→女子団体→男子個人→女子個人の順に時間差をつけて検量を行いました。特に大きな混乱もなく進行することができました。また、大会中看護師に待機してもらっていましたが、怪我や熱中症などの病気もなく終えることができました。大会全体を通して、新型コロナウイルス感染防止対策に神経を使いましたが、事前の周知徹底が上手くいき、スムーズな運営をすることができました。しかし、大会前の申込について、山城大会が他のブロックに比べて遅い日程なので、多くの作業を山城大会が終わってから行い、時間に追われる中での作業でした。来年度以降は、大会前日までの役割をきちんと分担しておく必要があると感じました。

府総体は、男子団体で、1位・久御山、2位・桂、3位・亀岡、衣笠、女子団体で、1位・久御山、2位・田辺、3位・大枝、太秦、男子個人で、1位・工藤春太（桂）、2位・田中陽己（久御山）、3位・鈴木悠羽太（桂）、橋本峻（久御山）、女子個人で、1位、上村まい（久御山）、2位・多田優菜（久御山）、3位・西小路すずな（大枝）、東海穂香（長岡第四）、という結果であった。近畿大会では、男子個人で、田中陽己（久御山）が優勝、全国大会では男子団体で久御山がベスト8に進出するなどの活躍を見せてくれました。

今後取り組まなければならない課題について、全体としての競技力の低下が深刻化していることが挙げられます。また競技人口の減少（特に・チーム数の減少や女子の競技者の減少）に対して、技術指導が可能な教職員の、剣道部がある学校への異動や、未経験でも剣道に興味を持ってもらい指導できる教職員を増やすこと、技術指導が可能な教職員の競技力向上と審判技量の向上があげられます。その顧問の先生方への支援として、生徒も教職員も一緒に講習を行っています。また、京都府競技力向上対策本部にお力添え頂き、他府県から強豪校を招いての錬成大会なども実施しております。

最後に、来年度も競技の普及、競技力の向上に努め、さらに取り組みを継続し、発展させていきたいと思っておりますので、今後ともご指導とご協力の程、よろしくお願い致します。

令和3年度 京都府中学校総合体育大会 結果報告用紙

専門部名 (種目)	剣道	7月30日 (金)	会場	京都市武道センター
-----------	----	-----------	----	-----------

男子団体成績

学校名

1位 久御山 中学校
 2位 桂 中学校
 3位 亀岡 中学校
 3位 衣笠 中学校

0(1) 3(4)
 3(5) 0(1) 4(8) 1(2)
 桂 衣笠 久御山 亀岡

男子個人成績

氏名 学年

1位 工藤 春太 3 桂 中学校
 2位 田中 陽己 3 久御山 中学校
 3位 鈴木 悠羽太 3 桂 中学校
 3位 橋本 峻 3 久御山 中学校

決勝リーグの記録

	田中	橋本	工藤	鈴木	得点	勝数	本数	順位
田中	△	△	○××	1	1	2	2	
橋本	○×	△	△	1	1	1	4	
工藤	○×	○×	○××	3	3	4	1	
鈴木	△×	○×	△	1	1	2	3	

田中と鈴木は同数により一本勝負の結果、田中の勝利

女子団体成績

学校名

1位 久御山 中学校
 2位 田辺 中学校
 3位 大枝 中学校
 3位 太秦 中学校

0(0) 4(5)
 3(6) 0(0) 3(5) 1(2)
 田辺 太秦 久御山 大枝

女子個人成績

氏名 学年

1位 上村 まい 3 久御山 中学校
 2位 多田 優菜 3 久御山 中学校
 3位 西小路 すずな 3 大枝 中学校
 3位 東海 穂香 3 長岡第四 中学校

決勝リーグの記録

	多田	上村	西小路	東海	得点	勝数	本数	順位
多田	△×	○×	○×	2	2	3	2	
上村	○××	△	△	2	2	4	1	
西小路	△	△×	○××	1	1	3	3	
東海	△	○×	△×	1	1	2	4	

※上記以外の結果

男子ベスト8

5位 田畑 大 (久御山)
 6位 服部 蒼平 (東輝)
 7位 水口 寿潮 (久世)
 8位 山本 陽士 (桂)

女子ベスト8

5位 向山 美咲 (男山第三)
 6位 岩坪 愛夢 (育親)
 7位 代永 悠月 (久御山)
 8位 荒巻 日和 (久御山)

令和3年度をふり返って

相撲専門部

本年度も関係者の皆様には、様々なご協力をいただき、大会を事に終えることができました。このような成果が得られたことを心より感謝しております。本委員会では、生徒たちが相撲を正しく理解し、親しみ、真剣に取り組む中から心身ともにバランスよく成長することを目指しています。毎年、競技力の向上と競技人口の増加に力を注いでおります。まだまだ不十分ですが、中学校相撲部で育った選手が、高校ではもちろん、大学・社会人となっても主力選手として活躍している現状も得ております。

〈府大会〉

この5年間ほどは、伏見と大原野が特に充実している大会になっております。先だって開催された京都市大会においては、5人制での接戦の末、大原野中学校が伏見中を破り優勝しました。府大会は3人制で行うため、実力が拮抗している両校にとって、選手交代も含めてメンバーをどう組み合わせるかも特に重要に要素になってきます。伏見中は、基本に忠実で安定した相撲をとる2年生の武甕を軸に、軽量級で全国経験も豊富な井上の2人が充実しており、対する大原野は、奈佐、小林という2年生の2人が軸であり、この2人についてはいずれも試合経験が豊富です。残りの1人については、両校ともに1年生の選手があがってきます。今大会の組合せでも、中堅でこの1年生どうしの対戦になりましたが、現在のところは、100kg超級ある大原野の選手のほうが勝っている感じがあります。両校の対戦結果は、伏見中が2-1で大原野を破り優勝しました。取直しもあつたりと、本当に僅差で見事、京都市大会の屈辱を果たしました。コロナ禍で大きな声援は出来ない中でしたが、大変盛り上がった試合になりました。

〈近畿大会〉

2年ぶりに開催されるはずの大会でしたが、昨年はコロナ、今年は台風9号により、残念ながら2年連続の中止となってしまいました。出場予定だった伏見、大原野、嵯峨については、各校とも2年生が中心のチームで次年度もほぼ同じメンバーでチーム編成できるため、今後1年間の各選手の成長が大変楽しみなところでもあります。

〈全国大会〉

団体戦出場の伏見中は、予選3戦中2勝をあげ、決勝トーナメントに進出しましたが1回戦敗退、ベスト32という結果でした。個人は、伏見2年武甕が決勝トーナメントに進出しましたが、決勝トーナメントの1回戦（ベスト32の手前）で敗退しました。

〈おわりに〉

本委員会は、全国大会での上位入賞を目標にし、毎年合同の強化練習会や合宿を実施しています。専門委員や各中学校出身の現役高校生、大学生のOBらが、体を張った指導や創意工夫を凝らした稽古を行ってきた結果、近畿大会レベルの団体戦においては、体格では負けていても、互角に戦うことができます。しかし、近畿の個人出場選手や、全国レベルになると、他府県では道場など社会体育として普及しており、年少時より相撲に親しんでいることが、競技力に大きく影響しています。その中において、競技人口の拡大が大きな課題である本専門部では、道場に通う生徒以外に、勧誘によって相撲経験者を増やして底辺を拡大することが大切であります。本年度も、府中体連事務局をはじめ、関係の皆様にご多大のお世話になり、誠にありがとうございました。

第74回 京都府中学校総合体育大会

【相撲競技の部】 於 京都市武道センター相撲場

1. 団体リーグ戦
2. 個人戦

【団体戦出場校】

伏見中学校			大原野中学校			嵯峨中学校		
先	若林優太郎	2年	先	上田 恭吾	2年	先	田中 珀翔	3年
中	和田野翔哉	1年	中	土橋 誠羽	1年	中	永見 虎珀	1年
大	鶴 凧海	1年	大	高田 和寿	2年	大	小寺 遥飛	2年
選	井上 耀	2年	選	小林 蒼空	2年	選	能勢 拓実	1年
選	武甕 悠介	2年	選	奈佐 翼	2年	選		

【団体リーグ戦】

1 嵯峨中学校 0 対 3 大原野中学校					2 大原野中学校 1 対 2 伏見中学校						
先	田中 珀翔		—	○	上田 恭吾	先	上田 恭吾		—	○	若林優太郎
中	永見 虎珀		—	○	土橋 誠羽	中	土橋 誠羽	○	—		和田野翔哉
大	小寺 遥飛		—	○	高田 和寿	大	高田 和寿		—	○	鶴 凧海

3 嵯峨中学校 0 対 3 伏見中学校					
先	田中 珀翔		—	○	若林優太郎
中	永見 虎珀		—	○	和田野翔哉
大	小寺 遥飛		—	○	鶴 凧海

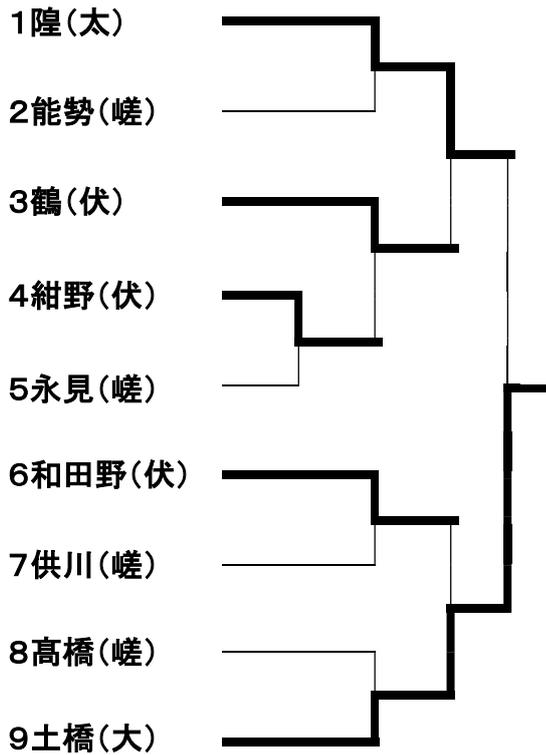
優勝 伏見中学校

2位 大原野中学校

3位 嵯峨中学校

	大原野	伏見中	嵯峨中	得点	順位
大原野		1	3	1-4	2
伏見中	2		3	2-5	1
嵯峨中	0	0		0-0	3

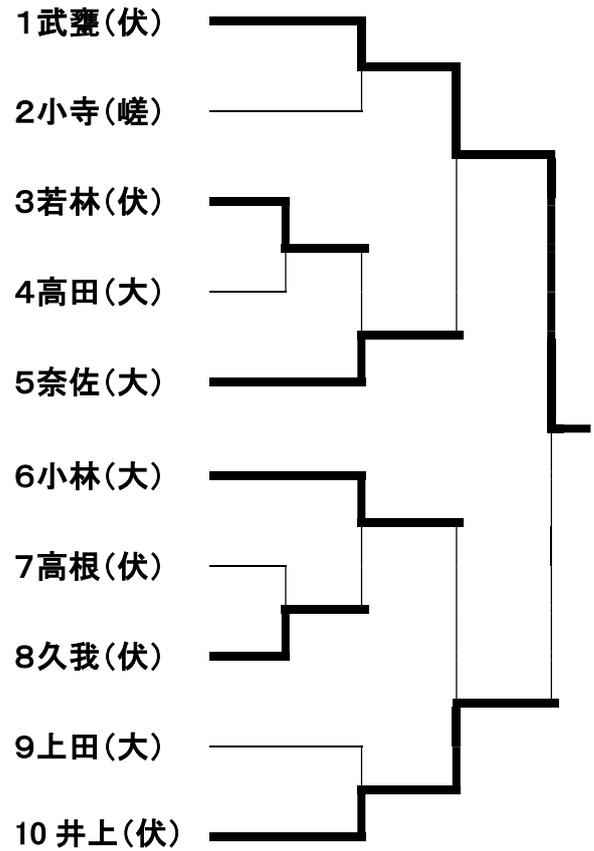
[個人1年生の部]



個人1年生の部

優勝 土橋 誠羽 (大)
2位 隍 新太 (太)
3位 鶴 凧海 (伏)
3位 和田野翔哉 (伏)

[個人2年生の部]



個人2年生の部

優勝 武甕 悠介 (伏)
2位 井上 耀 (伏)
3位 小林 蒼空 (大)
3位 奈佐 翼 (大)

[個人3年生の部]

田中(嗟) - 山田(栗)

個人3年生の部

優勝 山田 海心 (栗)
2位 田中 珀翔 (嗟)

[個人女子の部]

原田(伏) - 早川(伏)

齋藤(大) - 早川(伏)

原田(伏) - 齋藤(大)

個人女子の部

優勝 原田 美涼 (伏)
2位 齋藤 美来 (大)
3位 早川 弥沙 (伏)

令和3年度を振り返って

サッカー専門部

はじめに、中体連の先生方並びに各学校の顧問の先生方、専門委員の先生方、会場を提供していただいた各施設など、関係諸団体のご協力を賜り、また大会運営にご尽力いただいた皆様方に厚く御礼を申し上げ、年間報告をさせていただきます。

第74回京都府大会は、7月28・29・30日に、サンガスタジアム by KYOCERA、亀岡運動公園競技場、園部公園陸上競技場を会場に、各地区の予選を勝ち抜いてきた大枝中学校、太秦中学校、西院中学校、下京中学校（以上、京都市代表）、西城陽中学校、長岡中学校（以上、山城代表）、園部中学校、東輝中学校（口丹波代表）、日新中学校（中丹代表）、江陽中学校（丹後代表）の10チームが参加して、熱戦が繰り広げられました。どの対戦も各地区の代表チーム同士の戦いで、白熱したゲームが展開されました。

1日目に行われた1回戦は、下京中学校が日新中学校を4-1で破り、また東輝中学校が西院中学校を1-1（延長0-0、PK3-1）で破り2回戦に進出しました。

2日目に行われた2回戦では、西城陽中学校が下京中学校を2-0で破り、太秦中学校が園部中学校を2-1で破り、長岡中学校が江陽中学校を3-0で破り、大枝中学校が東輝中学校を2-0で破り、30日に行われる準決勝へと駒を進めました。この結果、準決勝は、西城陽中学校-太秦中学校、長岡中学校-大枝中学校の組み合わせとなりました。

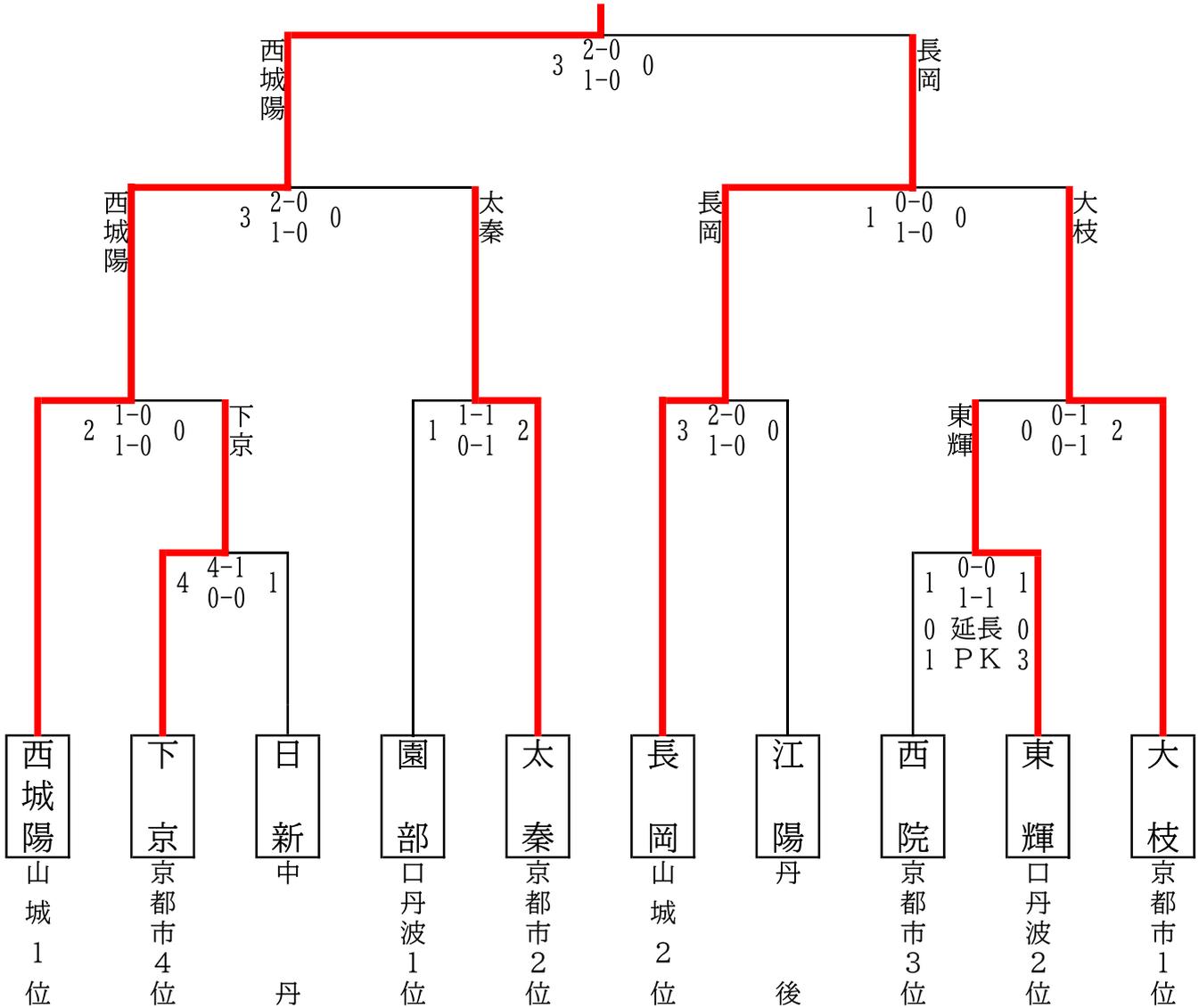
大会3日目、準決勝は、西城陽中学校と太秦中学校の対戦がサンガスタジアム by KYOCERAで行われました。サイド攻撃を中心に攻めた西城陽中学校が得点を重ねた一方、テンポの良いパスでチャンスを作った太秦中学校でしたが得点は奪えず、結果は3-0で西城陽中学校が決勝へ進出しました。また、もう一つの準決勝は長岡中学校と大枝中学校との対戦。拮抗した試合展開となりましたが、長岡中学校が1-0で勝利し決勝へ進みました。

決勝戦は山城1位の西城陽中学校と山城2位の長岡中学校との戦いとなりました。サイドからの幅を使った攻撃で相手を押し込んだ西城陽中学校に対し、長岡中学校はボールを奪った後もなかなかチャンスが作れない展開となりました。早い時間にセットプレーのチャンスを生かして先制し、その後も得点を重ねた西城陽中学校が3-0で勝利を収めました。この結果、近畿大会（兵庫県開催）には、西城陽中学校と長岡中学校が出場することになりました。また、新しく完成したサンガスタジアム by KYOCERAの素晴らしいピッチでの試合は、今後の京都のサッカーを担っていく若い選手たちにとって素晴らしい経験となりました。

近畿大会はノックアウト形式で、負けたら大会が終わりの緊迫した中で進められました。そんな中、長岡中学校は1回戦に本庄中学校（兵庫県第2代表）と対戦し、0-9と力の差を感じさせられる結果となってしまいました。また、西城陽中学校は2回戦から登場し、1回戦を2-0で勝利してきた枚方第四中学校（大阪府第2代表）と戦いました。前後半そして延長戦も0-0のスコアレスで終え、惜しくもPKで3-5と敗れてしまいました。この結果、西城陽中学校は5位トーナメントへ進出し、奈良学園中学校（奈良県第2代表）に4-1と勝利し5位決定戦へと進出しました。本庄中学校（兵庫県第2代表）と対戦し勝てば全国大会への切符を手に入れられる大一番でしたが、0-6と敗れ6位で大会を終えました。この結果、残念ながら京都府のチームは全国大会へと出場することはできませんでした。

なお、山梨県で行われた全国大会では、三田学園中学校（兵庫県代表）がベスト8、アサンプション国際中学校（大阪府代表）がベスト4と、全国の舞台でも力を示したチームもありました。来年度は、京都勢の全国大会出場、そして躍進を期待して、今年度の報告とさせていただきます。

令和3年度 京都府中学校総合体育大会 結果報告用紙



※上記以外の結果（ベスト8以上を必ず記入して下さい。準々決勝と明記し回戦で標記しないで下さい。

優勝 城陽市立 西城陽中学校 (初優勝)

準優勝 長岡京市立 長岡中学校

第3位 京都市立 太秦中学校 , 京都市立 大枝中学校

※ 優勝, 準優勝の西城陽中と長岡中については, 近畿大会へ出場します。

令和3年度を振り返って

ハンドボール専門部

全国的な新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度の大会開催が出来ず、今年度も大会開催が危ぶまれましたが、無事大会を終えることができました。これも、関係するすべての皆様のご支援とご協力の賜物と暑くお礼申し上げます。

さて、京都府大会では、男子の部は四条・桂川・大住・田辺、女子の部は大住・四条・東山泉・田辺の4校でそれぞれ決勝リーグがおこなわれ、男女共に、大住が優勝、田辺が準優勝に輝きました（田辺男子は近畿大会初出場）。コロナ禍で練習量に限りがあり、どのチームも完成には程遠い仕上がりがでしたが、工夫をしながら練習に取り組む様子が十分に伝わってきた大会でした。また、コロナ禍で大会ができたことに満足した子ども達の表情が何よりも印象的でした。指導者の意識もかわり、選手を中心に据える『プレイヤーズセンタード』の考え方が徐々に浸透してきたように思います。

近畿大会が8月9日10日に兵庫県神戸市でおこなわれ、兵庫県の専門部の方々のご尽力により一部の保護者の入館を認め、大会運営をおこないました。

田辺男子が見事初優勝、田辺女子が2年ぶり2回目の優勝に輝き、アベックで全国大会出場を決めました。大住男子は第3位、大住女子は準優勝で同じくアベックで全国大会へ出場を果たし、前回大会（滋賀県開催）同様に京都から4チームが全国大会に出場を決めました。

8月22日より埼玉県浦和市・富士見市で全国大会がおこなわれ、大住男子が後一步で準決勝進出でしたが、惜しくも扇台中学校【愛知県】[19-21]に敗退し、大住女子は大会初戦から負傷者が出る中、大会優勝校の東久留米西中学校【東京都】[13-28]に敗退し、アベックでベスト8でした。田辺男子は初日勝利をおさめ、2日目に成田中学校【宮城県】[28-30]と対戦し、スピーディな展開となりましたが惜しくも敗れ、田辺女子は初戦で昭和学院中学校【千葉県】[20-21]と激突、ラスト数秒で逆転を許し敗退しました。上位進出とはなりませんでしたが、大会上位校との接戦は非常に見ごたえのあるものでした。

近年、ハンドボール競技では、京都府から全国大会に出場することが増え、後輩たちにも良い刺激になっています。この流れを止めない為にも、専門部として取り組んでいかなければならないと思います。

今回の各大会の運営に携わり、新型コロナウイルス感染症が流行する中で、どの大会役員の方々も「子ども達のために」を合言葉に、工夫を凝らし運営に努めておられました。全国大会については各学校30名までの保護者の入館も許可され、守らなければならないルールが沢山ありましたが、運営側と応援側が一致団結して感染防止に取り組んでいるような会場の雰囲気でした。今後の運営についても、運営側と応援者が共に作り上げていく大会運営でありたいと決意し、専門部の報告とさせていただきます。

第74回 京都府中学校総合体育大会

7月27日(火)

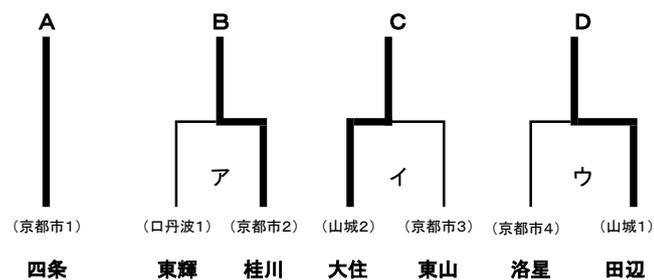
10:00~	あ	女子 予選トーナメント	い	女子 予選トーナメント
		東山泉 27 $\frac{14}{13}$ - $\frac{4}{12}$ 16 久世		神川 7 $\frac{1}{6}$ - $\frac{17}{19}$ 36 田辺
11:20~	ア	男子 予選トーナメント	イ	男子 予選トーナメント
		四条 30 $\frac{21}{9}$ - $\frac{1}{10}$ 11 東輝		洛星 15 $\frac{5}{10}$ - $\frac{19}{10}$ 29 田辺
12:40~	ウ	男子 予選トーナメント	エ	男子 予選トーナメント
		東輝 18 $\frac{7}{11}$ - $\frac{13}{15}$ 28 桂川		大住 39 $\frac{19}{20}$ - $\frac{6}{6}$ 12 東山
14:00~	う	(a) 女子決勝リーグ (b)	え	(c) 女子決勝リーグ (d)
		大住 33 $\frac{19}{14}$ - $\frac{4}{2}$ 6 四条		東山泉 8 $\frac{6}{2}$ - $\frac{12}{16}$ 28 田辺
15:20~	オ	(A) 男子決勝リーグ (B)	カ	(C) 男子決勝リーグ (D)
		四条 30 $\frac{15}{15}$ - $\frac{4}{8}$ 12 桂川		大住 20 $\frac{10}{10}$ - $\frac{7}{9}$ 16 田辺

7月28日(水)

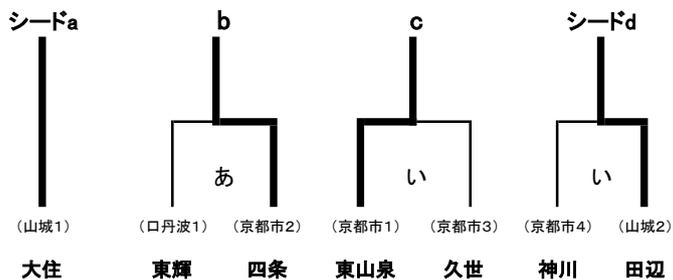
10:00~	お	(うの勝者) 女子決勝リーグ (えの敗者)	か	(うの敗者) 女子決勝リーグ (えの勝者)
		大住 24 $\frac{11}{13}$ - $\frac{6}{6}$ 12 東山泉		四条 15 $\frac{5}{10}$ - $\frac{21}{16}$ 37 田辺
11:30~	キ	(オの勝者) 男子決勝リーグ (カの敗者)	ク	(オの敗者) 男子決勝リーグ (カの勝者)
		四条 19 $\frac{10}{9}$ - $\frac{13}{11}$ 24 田辺		桂川 5 $\frac{2}{3}$ - $\frac{18}{18}$ 36 大住
13:30~	き	(うの勝者) 女子決勝リーグ (えの勝者)	く	(うの敗者) 女子決勝リーグ (えの敗者)
		大住 16 $\frac{8}{8}$ - $\frac{3}{9}$ 12 田辺		四条 21 $\frac{13}{8}$ - $\frac{12}{8}$ 20 東山泉
15:00~	ケ	(オの勝者) 男子決勝リーグ (カの勝者)	コ	(オの敗者) 男子決勝リーグ (カの敗者)
		四条 10 $\frac{5}{5}$ - $\frac{23}{17}$ 40 大住		桂川 13 $\frac{1}{12}$ - $\frac{17}{13}$ 30 田辺
16:00	閉会式			

※カタカナ=男子 ひらがな=女子

【男子】予選トーナメント



【女子】予選トーナメント



男子 決勝リーグ

	A 四条	B 桂川	C 大住	D 田辺
A 四条		○ 30-12	× 10-40	× 19-24
B 桂川	× 12-30		○ 5-36	× 13-30
C 大住	○ 40-10	○ 36-5		○ 20-16
D 田辺	○ 24-19	○ 30-13	× 16-20	

女子 決勝リーグ

	a 大住	b 四条	c 東山泉	d 田辺
a 大住		○ 33-6	○ 24-12	○ 16-12
b 四条	× 6-33		○ 21-20	× 15-37
c 東山泉	× 12-24	× 20-21		× 8-28
d 田辺	× 12-16	○ 37-15	○ 28-8	

- 優勝 京田辺市立大住中学校
※3年ぶりの優勝
- 準優勝 京田辺市立田辺中学校
- 3位 京都市立四条中学校
- 4位 京都市立桂川中学校

- 優勝 京田辺市立大住中学校
※4年ぶりの優勝
- 準優勝 京田辺市立田辺中学校
- 3位 京都市立四条中学校
- 4位 京都市立東山泉小・中学校

2021 年度を振り返って

バドミントン専門部

本年度も中体連並びに専門部長、各顧問の先生方、その他関係機関の方々のご協力により京都府大会日程を無事終了できましたことを厚くお礼申し上げます。日程は、7月29日に団体戦、7月30日に個人戦を宇治市西宇治公園体育館で行いました。2日間、各ブロックから出ていただいた競技役員の方々に協力していただき、男女で時差をつけてスムーズに運営することができました。また、今年度も両日とも看護師を派遣していただき、大きな事故・怪我なく、安心して大会を終えることができました。

さて、本年度の京都府大会バドミントン競技の部の結果は別記の通りです。ご尽力いただいた関係の先生方に改めてお礼を申し上げます。

兵庫県での近畿大会には、京都府大会のシングルス上位3名、ダブルスと団体の上位2チームが出場しました。男子団体で、長岡京市立長岡第三中学校が見事優勝し、全国大会に出場しました。また個人では、男子ダブルスで城北中の大石・片山組が3位になり、全国大会に出場しました。

山梨県で行われた全国大会では、長岡第三中が1-2で2回戦で敗退、男子ダブルスの大石・片山組は1回戦で敗退しましたが、臆することなく全力で堂々とプレイしてくれました。

今後もバドミントン専門部として選手達の健全な育成が図れるよう努力していきたいと思っております。

令和3年度 第74回京都府中学校総合体育大会 バドミントンの部 大会結果

令和3年7月29・30日

宇治市西宇治公園体育館

		優勝	二位	三位		
団 体	男子	長岡第三	桂	洛星	木幡	
	女子	長岡第三	蜂ヶ岡	神川	木津第二	
個 人	男子	単	福原 直太朗 (大住)	向 竜生 (桂)	伊田 新 (木幡)	石黒 敦大 (寺戸)
		複	大石 翔太 片山 大智 (城北)	山部 蓮 岩崎 義琉 (桂)	木根 知哉 笹井 結斗 (長岡第三)	細見 一平 湯浅 敦貴 (長岡第三)
	女子	単	柳 杏優 (蜂ヶ岡)	中島 萌 (神川)	山田 栖奈 (長岡第三)	折井 真彩 (田辺)
		複	岩田 万由 三吉 日和 (長岡第三)	大西 香純 村上 はな (長岡第三)	野村 歌 辻 和華 (長岡)	人見 梨野 清水 凧沙 (蜂ヶ岡)